

第7回東アジア考古学会（SEAA7）における「神宿る島」 宗像・沖ノ島と関連遺産群の紹介

岡寺 未幾・仲谷 隆造

東アジア考古学会は、様々な学問分野の専門の考古学者、学者、学生、一般市民、中国、韓国、日本の考古学、周辺地域に興味を持つ世界中のメンバーから構成されている。東アジアの考古遺跡や遺物の文化遺産の保存にかかわる非政府組織である。中国、韓国、日本の考古学に関心を持つ学者の間のコミュニケーションを促進する1990年4月6日に始まった東アジア考古学ネットワーク（EAAN）を引き継ぐ形で1996年に設立された。1996年にホノルルで第1回東アジア考古学会を開催し2012年までは4年毎に開催され、以降は2年毎に開催され行われている。第7回東アジア考古学会（Society for East Asian Archaeology）はボストン（米国マサチューセッツ州）で平成28年6月7日から14日にかけて、会場はハーバード大学（6月8日から10日）とボストン大学（6月11日・12日）で行われた。会議参加者は約300名で、約300件の発表が行われた。東アジア考古学の分野に関心の高い層が集まる場において、「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺産群の普及啓発活動として、学会への参加を行った。

6月11日（土）午後のセッション31「東アジアおよび東南アジアの歴史考古学」（オーガナイザー：ケイ・ウエダ、エレン・エイシ、ジェフ・チャン）において「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺産群その考古学への貢献」というテーマで、英国セインズベリー研究所サイモン・ケイナー氏・岡寺で投稿し、ケイナー氏から報告いただいた。約30～40名程度の参加があった。また、フィルム・セッションは、6月10日（金）午前10時にハーバード・アート・ミュージアムにおいて、ビデオの上映を行った。視聴覚の設備が整った場所で、良質な音声で紹介することができた。紹介したビデオはユネスコへ推薦書とともに提出したものであった。約17分とやや長めの上映時間であったが、約30名程度の方にビデオを見ていただいた。学会における報告、フィ

ルム・セッション、パンフレットの配布等を通じて多くの方々から、様々な意見や感想を賜ったので、主なものを下記にまとめておく。

第一声としては非常に興味深い資産だという、感想を多くいただいたが、それ以外の主な意見は「女人禁制」に関わるものと「沖ノ島の保存管理」に関わるものがほとんどであった。

女人禁制については、サイモン・ケイナー氏も報告の中で以下のように述べている。

「なぜ女性は沖ノ島に行けないのか？という質問に対する明快で確実な回答を用意する必要がある。女性の権利を掲げるヒラリー・クリントンがアメリカ初の女性大統領を目指し、男女差別問題への意識が更に高まっている。女人禁制のギリシャの世界遺産は評判が悪い。英主要紙テレグラフをはじめ、既に「日本が女人禁制の島を世界遺産に推薦」と批判記事がウェブ版に掲載されている。」

会場でいただいた女人禁制に関わる意見としては、以下のものがある。

- ・女性がいけないことについては、現代の世の中から抵抗は必ずあるだろう（女性・イギリス）
- ・女性が調査にいけないのは不満ではないか？（女性・オランダ）
- ・女人禁制は問題（女性・カナダ）

この問題については、通常以下のように説明し、理解を求めている。

「沖ノ島は通常は神職以外誰も行くべきところではない禁忌というきまりがある。これは地域の信仰の継承の中で根付いた慣習であり、人々が禁忌をどうしていくか意思決定を行っていく。沖ノ島は島そのものがまだ信仰の対象である。これは、信仰に関する遺産であり、それを守る人々の意向が重要だと考えている。」

また、沖ノ島の保存管理に関する意見としては以下



サイモン・ケーナー氏によるプレゼンテーション



フィルムセッション実施状況

のようなものがあった。

- ・世界の有名な資産と同じように、沖ノ島も来訪者が押し寄せてくる可能性があるため、遺産を保護する措置を考えておく必要がある（ジョン・ミスク氏・シンガポール）。
- ・保存管理についても心配がある。神職一人で一体何が守れるのか。中国では遺産の破壊や盗掘の被害が甚大である。このフィルムでは、まだ島には宝の山が埋まっているという見方ができる。盗掘者が押しかけて、掘り返して遺産のOUVが失われる危険性が高いように思われる。島の保存管理があまりにも脆弱ではないのか？（女性・イギリス）

孤島である沖ノ島が世界遺産に登録されることによって盗掘などの被害を受けるのではないかという心配も多く聞かれた。沖ノ島については防犯対策を強化する説明を行って理解を求めた。いずれにせよ、女人禁制と保存管理に関する質問は多く、今後も様々な観点からの意見や議論が出てくることが想定される。

それ以外の意見としては、ビデオやパンフレットが非常によくできているので教材として使用したいというありがたい申し出もあった。さらに、会期中を通して、受付でのパンフレット配布にご協力をいただき、広く参加者に行き渡らせることができた。また、会議以外でも在ボストン日本国総領事館でも配布にご協力をいただいた。記して感謝したい。

SEAA7

OKADERA Miki / KANER, Simon [181][A6]

The Sacred Island of Okinoshima and its Contribution to the Archaeology of Religion

During much of the first millennium AD, at the time when a recognisable East Asian civilisation was first appearing, ritual offerings of objects from Japan, Korea, China and the Silk Roads were made on the tiny island of Okinoshima in the Genkai Sea, between Korea and the southern Japanese island of Kyushu. This paper draws on work undertaken for the nomination of Okinoshima as UNESCO World Heritage to explore broader themes in the archaeology of the arrival of Buddhism and its impact on local beliefs. It will examine how the World Heritage nomination process is setting studies of the archaeology of early Buddhism and Shinto in a comparative global perspective, including from the Silk Roads, and how such studies relate to the emerging field of the archaeology of religion.